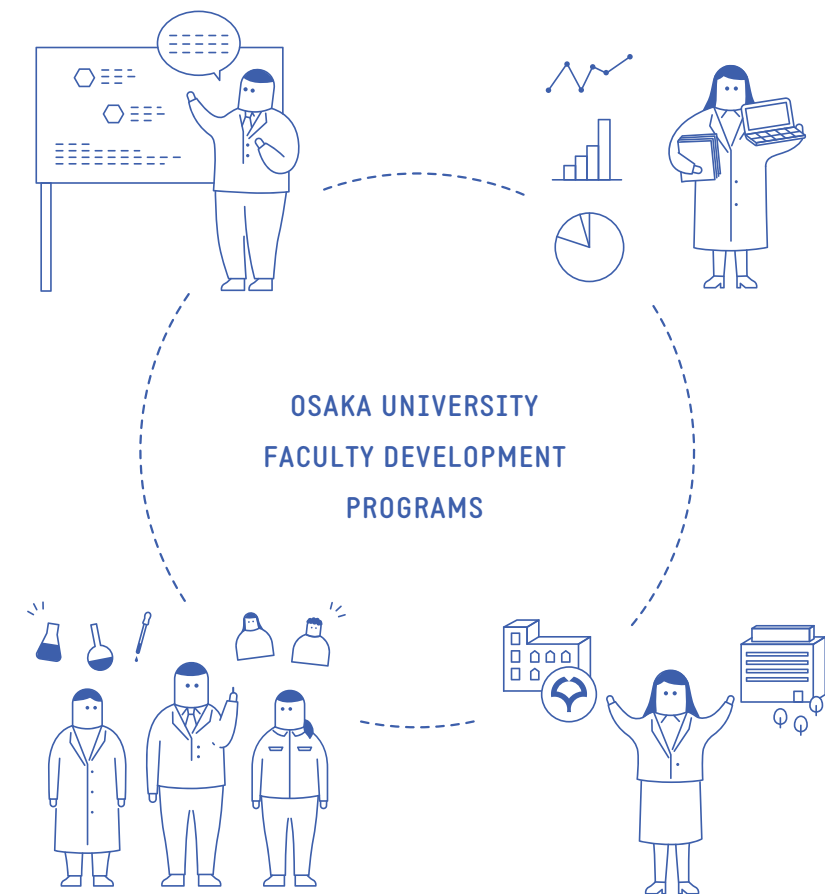


大阪大学教員のための

ファカルティ・ディベロップメント プログラムガイド



お問い合わせ先

各FDプログラムの詳細については、
開催部局にお問い合わせください。



発行元

大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部
〒560-0043 豊中市待兼山町1-16 豊中キャンパス
全学教育総合棟Ⅱ4階417



2018年度

4月～9月

大阪大学教員の皆様へ

近年、大学はさまざまな「改革」を社会から求められています。中でもとりわけ重要なことは、高等教育機関としての大学が優れた人材を育成し、社会に貢献していくことです。そのためには、教育を担う立場にある教員に高い教育・研究能力を備えることが必要だと思います。

本学は2017年10月以降、新たに採用された教員に対して、教育や研究に関する30時間の研修プログラムの受講を必須化することにしました。この取り組みによって、大学の社会に対する説明責任を果たすと共に、本学の各教員に、教員として必要となる能力を身につける権利を保障するものです。

もとより本プログラムガイドに掲載されているセミナーや研修自体は、新任教員だけではなく、全教員を対象として設計されています。本学の教育、研究、社会学連携、マネジメントの全ての領域で高いパフォーマンスを実現するため、できるだけ多くの教員のみなさまにご参加いただきたいと考えています。

新任教員の皆様へ

本学では、従来から教育指導・学習支援・学生支援能力の向上を図り、質の高い教育・学生支援活動の維持を目的として、FD（ファカルティ・ディベロップメント）に積極的に取り組んでいます。本学の教育、研究、社会学連携、学内運営の取組をさらに向上させるため、新規採用する教員に対して本学の教員として身に付けておくべき基本的な知識やスキルを習得する機会を提供することを目的に、新任教員研修を必須化しています。具体的には、全学及び各部局が実施する各種教員向け研修について、新規採用される講師・助教等を対象に、採用後3年間で30時間の研修受講を必須化することにより、教育、研究、社会学連携及びマネジメント能力の習得を図ります。



理事・副学長(教育担当)
小林傳司

概要

大阪大学ファカルティ・ディベロップメント研修プログラム

大阪大学はこれまでFD（ファカルティ・ディベロップメント）に取り組んできました。プログラムは、教員として必要な①教育能力、②研究能力、③社会学連携能力、④マネジメント能力の4つのカテゴリーに分けて整理されています。伸ばしたい能力にあわせてプログラムガイドをご活用ください。

教育能力

開発プログラム

教育技法や教材作成方法、評価方法、学内の授業支援システム（CLE）の操作方法、多様な学生への理解など、阪大生の学習を促すための授業設計に関するプログラムです。

研究能力

開発プログラム

学術情報の迅速かつ効率的な収集方法や発信方法、厳守すべき研究倫理など、研究を行う上で必要な能力開発を目指すプログラムです。

マネジメント能力

開発プログラム

薬品や廃液の取扱など安全衛生に関わる内容や、各種コンプライアンスに関わる内容など、組織の管理運営能力の開発を目指すプログラムです。



社会学連携能力

開発プログラム

緒方洪庵が開いた適塾や大阪大学の歴史など本学への理解を深めるプログラムや、実社会と連携した教育や研究の進め方についてのプログラムです。

大阪大学全学FDプログラム受講証明制度

大阪大学全学教育推進機構教育学習支援部（旧：教育学習支援センター）では、2014年度から全学FDプログラムの受講証明制度を実施しています。受講者は大阪大学CLEにおいて受講時間数（FDポイント）と、受講した時間数によって色が変わるFDバッジを確認することができます。また、教育学習支援部では、受講者の申し出に応じて、30時間ごとに修了証明書を発行します（上限120時間）。

FDバッジの確認方法



FDバッジの種類



1. CLEに阪大IDでログインする。
2. コミュニティから「教育学習支援コモンズ（TLSC）FD」をクリックする。
3. 左側の「FDバッジの確認」をクリックする



研修プログラム受講必須時間数

新任教員の皆さんは以下の通り各プログラムを受講してください。

- ▶ 教育能力 開発プログラム 10時間以上
- ▶ 研究能力 開発プログラム 4時間以上
- ▶ 社会学連携能力 開発プログラム あわせて6時間以上
- ▶ マネジメント能力 開発プログラム あわせて6時間以上

研修プログラム一覧〈平成30年度上期(H30.4～H30.9)開催分〉

※掲載内容は2月28日時点の情報です。
最新情報は各開催部局にお問い合わせいた
だくか、学内ポータルサイト「マイハンダイ」
(FD 関係) にてご確認ください。



教育能力
開発プログラム



研究能力
開発プログラム



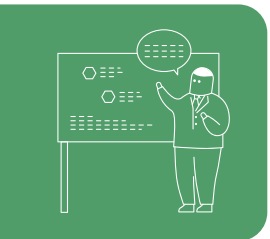
社学連携能力
開発プログラム



マネジメント能力
開発プログラム

カテゴリ	掲載 ページ	受講 対象者 限定	研修テーマ／タイトル	場所	日時	時間数	募集定員	使用言語	開催部局
4 月									
研究	P.13	○	総合解析センター説明会(機器分析講習会)	吹田	4 月 4 日 13:45-16:45	3	50 名	日本語	産業科学研究所
教育	P.6		アクティブ・ラーニング	豊中	4 月 5 日 13:30-15:30	2	30 名	日本語	全学教育推進機構
教育	P.6	○	理学教育カリキュラム反省会	豊中	4 月 5 日 13:30-16:00	2.5	150 名	日本語	理学研究科
教育	P.6		アクティブ・ラーニング	吹田	4 月 12 日 13:30-15:30	2	30 名	日本語	全学教育推進機構
教育	P.6		講義法	豊中	4 月 17 日 13:00-15:00	2	30 名	日本語	全学教育推進機構
教育	P.6		学習評価法	豊中	4 月 17 日 15:15-17:15	2	30 名	日本語	全学教育推進機構
教育	P.7		双方向型授業導入のための基礎	豊中	4 月 19 日 16:30-19:00	2.5	40 名	日本語	CO デザインセンター
研究	P.13	○	不正防止について	吹田	4 月 20 日 11:20-11:40	0.33	未設定	日本語／ 英語	微生物病研究所、 免疫学フロンティア研究センター
研究	P.13	○	不正防止について	吹田	4 月 20 日 13:35-13:55	0.33	未設定	日本語／ 英語	微生物病研究所、 免疫学フロンティア研究センター
マネジメント	P.16	○	産研新人オリエンテーション	吹田	4 月下旬 または 5 月上旬	4 (予定)	50 名	日本語	産業科学研究所
マネジメント	P.16	○	産研安全講習会	吹田	4 月下旬 または 5 月上旬	4	約 50 名	日本語	産業科学研究所
マネジメント	P.16		新入教職員安全衛生講習会	未定	4 月	2.25	250 名	日本語	安全衛生管理部
5 月									
教育	P.6		講義法	吹田	5 月 8 日 13:00-15:00	2	30 名	日本語	全学教育推進機構
教育	P.6		学習評価法	吹田	5 月 8 日 15:15-17:15	2	30 名	日本語	全学教育推進機構
教育	P.7		ルーブリック評価	豊中	5 月 10 日 13:00-15:00	2	30 名	日本語	全学教育推進機構
教育	P.7		講義資料の作成と活用	豊中	5 月 24 日 16:20-17:50	1.5	30 名	日本語	全学教育推進機構
教育	P.7		ルーブリック評価	吹田	5 月 14 日 13:00-15:00	2	30 名	日本語	全学教育推進機構
教育	P.8		グループ学習	吹田	5 月 17 日 14:40-16:40	2	30 名	日本語	全学教育推進機構
教育	P.8		講義収録システム活用法	吹田	5 月 22 日 16:20-17:50	1.5	20 名	日本語	全学教育推進機構
教育	P.8		グループ学習	豊中	5 月 31 日 14:40-16:40	2	30 名	日本語	全学教育推進機構
マネジメント	P.16		高圧ガス管理支援システム(OGCS)利用講習	未定	5 月	1.5	50 名	日本語	安全衛生管理部
マネジメント	P.16		高圧ガス・液体寒剤に関する安全講習 (低温センター吹田分室編)	未定	5 月	1.5	50 名	日本語	安全衛生管理部
マネジメント	P.17		高圧ガス・液体寒剤に関する安全講習 (低温センター豊中分室編)	未定	5 月	1.5	50 名	日本語	安全衛生管理部
マネジメント	P.17		大阪大学薬品管理支援システム(OCCSⅢ)の利用について	未定	5 月	1	50 名	日本語	安全衛生管理部
マネジメント	P.17		詳解：化学物質安全取扱講習	未定	5 月	1	50 名	日本語	安全衛生管理部
マネジメント	P.17		非化学系のための化学薬品取扱講習	未定	5 月	1	50 名	日本語	安全衛生管理部
マネジメント	P.18		実験系廃液・排水の取扱い	未定	5 月	1	50 名	日本語	安全衛生管理部
マネジメント	P.18		電気コンセントと電気配線の安全講習	未定	5 月	1	50 名	日本語	安全衛生管理部
6 月									
教育	P.8		コミュニケーション教育導入法	豊中	6 月 7 日 15:30-17:30	2	30 名	日本語	全学教育推進機構
マネジメント	P.18	○	大阪大学新任教員(研究員)研修	吹田	6 月 13 日 9:30-12:00	2.5	未設定	日本語	総務部人事課
教育	P.7		講義資料の作成と活用	吹田	6 月 14 日 16:20-17:50	1.5	30 名	日本語	全学教育推進機構
教育	P.9		オンライン教材作成法	豊中	6 月 14 日 16:20-17:50	1.5	30 名	日本語	全学教育推進機構
社学連携	P.15		産学官民連携の協創まちづくりにおける大学の役割	吹田	6 月 15 日 18:10-19:40	1.5	50 名	日本語	CO デザインセンター

カテゴリ	掲載 ページ	受講 対象者 限定	研修テーマ／タイトル	場所	日時	時間数	募集定員	使用言語	開催部局
6 月									
教育	P.8		講義収録システム活用法	豊中	6 月 21 日 16:20-17:50	1.5	20 名	日本語	全学教育推進機構
教育	P.9		オンライン教材作成法	吹田	6 月 21 日 16:20-17:50	1.5	30 名	日本語	全学教育推進機構
研究	P.13		Maple 講習会	豊中	6 月	3	30 名	日本語	サイバーメディアセンター
マネジメント	P.18	○	理学研究科・理学部ハラスメントに関する研修会	豊中	6 月下旬	1	未設定	日本語	理学研究科
7 月									
教育	P.9		コースデザインワークショップ	豊中	7 月 14 日～15 日 各日 10:00-18:00	20 (事前 学習含)	30 名	日本語	全学教育推進機構
教育	P.9		シラバス作成法	豊中	7 月 19 日 14:40-16:40	2	30 名	日本語	全学教育推進機構
教育	P.10		アクティブラーニングの理論と実践 ーアクティブラーニングとは何か?どのように実践するのか?	吹田	7 月 19 日 16:00-17:30	1.5	70 名	日本語	人間科学研究科
教育	P.9		シラバス作成法	吹田	7 月 31 日 14:40-16:40	2	30 名	日本語	全学教育推進機構
研究	P.13	○	微研職員研修 1：Academic English for RIMD Researchers	吹田	7 月	3×4 日	20 名	日本語	微生物病研究所
マネジメント	P.18		ハラスメント防止等に関する研修会	豊中	7 月	2	100 名	日本語	人権問題委員会
9 月									
教育	P.9		コースデザインワークショップ	豊中	9 月 6 日～7 日 各日 10:00-18:00	20 (事前 学習含)	30 名	日本語	全学教育推進機構
教育	P.10		大阪大学ファカルティ・ディベロップメントフォーラム	吹田	9 月 13:00-17:00	3.5	300 名	日本語	ファカルティ・ ディベロップメント委員会
教育	P.10		大阪大学ファカルティ・ディベロップメントフォーラム	豊中	9 月 13:00-17:00	3.5	300 名	日本語	ファカルティ・ ディベロップメント委員会
マネジメント	P.19	○	平成 30 年度公的研究費の不正使用防止に係る コンプライアンス説明会(仮)	豊中	9 月 (2 回実施予定)	1	各 80 名	日本語	文学研究科
教育	P.10		情報教育システム教員向け説明会	豊中	9 月	1.5	30 名	日本語	サイバーメディアセンター
マネジメント	P.19	○	コンプライアンス教育	豊中	9 月上旬～ 10 月下旬	1	未設定	日本語	理学研究科
定期・不定期									
教育	P.11		コンサルティングサービス	豊中	随時	1× 1-3 回	未設定	日本語	全学教育推進機構
教育	P.10		iPad Café	豊中	原則毎月第 4 木曜日 15:00-16:30	1.5	30 名	日本語	全学教育推進機構
研究	P.14	○	アドバンストセミナー	吹田	毎月 1 回 16:00-17:00	1	未設定	日本語／ 英語	微生物病研究所、 免疫学フロンティア研究センター
研究	P.14	○	微研集談会	吹田	毎月第 4 火曜日 (8 月、12 月除く) 16:00-17:00	1	未設定	日本語／ 英語	微生物病研究所、 免疫学フロンティア研究センター
未定									
教育	P.11		Echo ALP を用いた講義映像・講義資料配信とその応用	豊中	未定	1.5	30 名	日本語	サイバーメディアセンター他
教育	P.11		授業支援システム(CLE)入門講座	豊中	未定	1.5	30 名	日本語	サイバーメディアセンター他
教育	P.11		授業支援システム(CLE)応用講座	豊中	未定	1.5	30 名	日本語	サイバーメディアセンター他
教育	P.12		ハラスメント防止セミナー	吹田	未定	3	30 名	日本語	工学研究科
教育	P.12		教育者として、大切にすることは何か?	吹田	未定	3	30 名	日本語	工学研究科
教育	P.12		研究室不登校の学生の心のケアについて	吹田	未定	3	30 名	日本語	工学研究科
教育	P.12		自閉症スペクトラム障害ないし、 その傾向にある学生への対応について	吹田	未定	3	30 名	日本語	工学研究科
教育	P.12	○	授業見学会(大阪大学・関西大学)	豊中他	未定	1.5	未設定	日本語	高等司法研究科
研究	P.14		研究・教育の推進に資する図書館の利活用	未定	未定	1.5	50 名	日本語	附属図書館
研究	P.14		微研職員研修 1：研究成果の社会実装を考える	吹田	未定 (年 2 回開催予定)	各 3	各 80 名	日本語	微生物病研究所
マネジメント	P.19	○	工学研究科新任者研修	吹田	未定	6 (予定)	約 20 名	日本語	工学研究科
マネジメント	P.19	○	ランチョンセミナー	吹田	未定	1	12 名	日本語	工学研究科



教育能力 開発プログラム

教育技法や教材作成方法、評価方法、学内の授業支援システム(CLE)の操作方法、多様な学生への理解など、阪大生の学習を促すための授業設計に関するプログラムです。

◎受講にあたり、特別な配慮が必要な場合、開催2週間前までにご連絡ください。
◎本プログラムへの参加は「大阪大学FDポイント」に反映されます。ご自身のFDポイントはCLE上で確認できます。(FDポイントの確認方法はP.3をご参照ください)

アクティブ・ラーニング

講師：家島明彦(全学教育推進機構 講師)
山口和也(全学教育推進機構 教授)

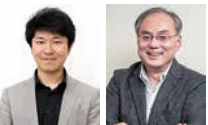
豊中 4月5日 13:30-15:30
吹田 4月12日 13:30-15:30

〈キーワード〉アクティブ・ラーニング、教育技法

〈概要〉

アクティブ・ラーニングとは、学生の学習意欲の向上や汎用的能力の育成に有効な教授・学習法の総称です。本研修では、大学におけるアクティブ・ラーニングの導入背景や、授業にアクティブ・ラーニングを取り入れる方法を説明します。また、学生の主体的な学習活動を促す様々な教育技法を組み合わせるアクティブ・ラーニング型授業をデザインするワークを行います。

《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》 ☎http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/fd/1804-1809 ✉tlsc@celas.osaka-u.ac.jp》



30名 2時間 日本語 対面

限定 理学研究科構成員のみ対象

理学教育カリキュラム反省会

講師：佐藤尚弘(理学研究科 高分子科学専攻 教授)
中澤康浩(理学研究科 化学専攻 教授)
柿本辰男(理学研究科 生物科学専攻 教授)

豊中 4月5日 13:30-16:00

〈キーワード〉コア科目、プロジェクト教育、教育改革

〈概要〉

コア科目及びプロジェクト教育に関する報告・議論
大阪大学における教育改革等について議論

《問合先：理学部学務係》 ✉ri-gakumu@office.osaka-u.ac.jp》

150名 2.5時間 日本語 対面

講義法

講師：佐藤浩章(全学教育推進機構 准教授)

豊中 4月17日 13:00-15:00
吹田 5月8日 13:00-15:00

〈キーワード〉講義法、情報伝達、理解、記憶

〈概要〉

アクティブラーニングの必要性が叫ばれる時代ですが、中世ヨーロッパに大学が誕生して以来、講義法はなくなっていないし、これからもなくなることはないでしょう。人前に立って知識を伝達する技法である講義法において大切なことは、学生が知識を理解し記憶するというメカニズムを理解することです。本プログラムではその理解をもとに、効果的な技法を習得することを目指します。

《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》 ☎http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/fd/1804-1809 ✉tlsc@celas.osaka-u.ac.jp》



30名 2時間 日本語 対面

学習評価法

講師：佐藤浩章(全学教育推進機構 准教授)

豊中 4月17日 15:15-17:15
吹田 5月8日 15:15-17:15

〈キーワード〉評価、成績づけ、形成的評価、総括的評価

〈概要〉

学生の能力をいったいどのように評価したら良いのでしょうか。本セミナーでは、何を、いつ、どのように評価したら良いのかについて学びます。そして、伝統的なテストやレポートに加えて、ループリック評価、ポートフォリオ評価、コンセプトマップ、リフレクションシートといった新しいツールを使った評価法、また教員評価以外にも、自己評価・ピア評価など、学習成果を可視化する新しい評価方法について学びます。さらに剽窃等の学問的不誠実行為の防止法についても学びます。

《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》 ☎http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/fd/1804-1809 ✉tlsc@celas.osaka-u.ac.jp》



30名 2時間 日本語 対面

双方向型授業導入のための基礎

講師：平田オリザ(CO デザインセンター 特任教授)

豊中 4月19日16:30-19:00

〈キーワード〉演劇、ワークショップ、アクティブラーニング、コミュニケーション、大学入試改革

〈概要〉

簡単なコミュニケーションゲームの実践と解説、およびその意味づけの講義。

《問合先：全学教育推進機構等事務部 (CO デザインセンター総務担当)

☎yamada-t@office.osaka-u.ac.jp ☎http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/fd/1804-1809》

40名 2.5時間 日本語 対面

ループリック評価

講師：浦田悠(全学教育推進機構 特任講師)
佐藤浩章(全学教育推進機構 准教授)

豊中 5月10日13:00-15:00
吹田 5月14日13:00-15:00

〈キーワード〉ループリック、パフォーマンス評価

〈概要〉

1枚目のレポートの採点基準と 50 枚目のそれがずれていると気になったことはありませんか？評価にかかる時間をもっと短縮できたらと思ったことはありませんか？ループリックがそんな悩みを解決してくれます。ループリックとは、教育・学習成果の評価の厳密化と効率化を進めるために使われる評価ツールです。本セミナーではループリックの作成手続きと様々な事例を紹介しながら、研修時間内に自らの授業で活用できるループリックを作成します。成績評価の厳密化と効率化を進めたい教員だけではなく、カリキュラム・プログラム評価に関心のある教職員、人事評価に関心のある教職員の方にも有用な内容です。

※参加者は事前に送付されるファイルを取り込んだパソコンを持参ください。持参できない場合はパソコンを使わずに紙で作業もできます。

《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》 ☎http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/fd/1804-1809 ✉tlsc@celas.osaka-u.ac.jp》



30名 2時間 日本語 対面

講義資料の作成と活用

講師：浦田悠(全学教育推進機構 特任講師)

豊中 5月24日16:20-17:50
吹田 6月14日16:20-17:50

〈キーワード〉講義資料、スライド、配付資料

〈概要〉

日々の講義資料の作成は、教員にとって最も時間と手間がかかる業務の1つです。そのため、スライドを利用する授業では、既存のテンプレートをそのまま用いて、単調な箇条書きだけのスライドを作ってしまうがちかもしれません。また、ハンドアウト・レジュメについても、過不足のない分かりやすい資料を準備し、それを有効に活用することはなかなか難しいものです。そこで、本研修では、伝わる講義資料をどのように作成し、かつそれをどう活用するのかということについて、具体的なデザインの原則や効率化するためのティップスを紹介します。また、実際に普段の講義資料を共有し、よりよい講義資料へと改善するためのヒントも得ていただくことを目指します。
※当日は、パソコンもしくは印刷物で普段作成されているスライド資料、あるいは配付資料を 1つ以上ご持参ください。グループワークと振り返りの材料となります。

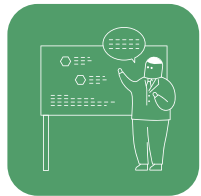
《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》 ☎http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/fd/1804-1809 ✉tlsc@celas.osaka-u.ac.jp》



30名 1.5時間 日本語 対面

定員
受講時間
使用言語
研修形式

※掲載内容は2月28日時点の情報です。最新情報は各開催部局にお問い合わせいただくか、学内ポータルサイト「マイハ نداイ」(FD関係)にてご確認ください。



教育能力 開発プログラム

グループ学習

講師：大山牧子（全学教育推進機構 助教）
山口和也（全学教育推進機構 教授）

豊中 5月31日 14:40-16:40
吹田 5月17日 14:40-16:40

〈キーワード〉グループ学習、授業デザイン、教育技法

〈概要〉

アクティブ・ラーニング型の授業が注目されています。アクティブ・ラーニング型の授業で多く導入されるグループ学習には、様々な種類がありますが、学生の深い学びをもたらすためには、目的に応じた方法を導入することが重要です。自らの授業の中でどのようにとりいれて良いのかお困りではないですか？本セミナーでは、大学の授業の中で実施され得る様々な種類のグループ学習と、その特徴を説明すると共に、授業の中で目的に応じてどのように導入するかを考えます。

《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》 ☎ <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/fd/1804-1809> ✉ tlsc@celas.osaka-u.ac.jp》

講義収録システム活用法

講師：浦西友樹（サイバーメディアセンター 准教授）
浦田悠（全学教育推進機構 特任講師）

豊中 6月21日 16:20-17:50
吹田 5月22日 16:20-17:50

〈キーワード〉ICT 活用教育、アクティブラーニング

〈概要〉

echo360 社のアクティブラーニングプラットフォーム（ALP）を用いれば、お手持ちのパソコンで手軽にビデオ教材を作成・配信することができ、予習や復習、補講のみならず、部局や研究室でのオンライン講習等にもご利用いただけます。また、ウェブカメラを使えば、パソコン画面と教員の顔や教室の映像の2画面を同時に収録することも可能です。本セミナーでは、ご自身のノートパソコンで実際に映像教材をつくりながら、授業での活用方法をご検討いただきます。

※当日はノートパソコン（Windows もしくは Mac）をお持ちください。USB カメラは幾つか準備しておりますが、数が足りない場合はご容赦ください。

※ 授業での公開をご希望の方は、参加申込みフォームの備考欄に「授業名」をお書きください。

《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》 ☎ <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/fd/1804-1809> ✉ tlsc@celas.osaka-u.ac.jp》

コミュニケーション教育導入法

講師：蓮行（国際教育交流センター 非常勤講師）

豊中 6月7日 15:30-17:30

〈キーワード〉コミュニケーション、演劇的手法、ワークショップ、授業開き

〈概要〉

ワークショップ型・合意形成型の講義の導入で用いる、コミュニケーションゲームを紹介します。性別や属性、専門性の違う受講者同士が、いかに短時間でそれらの「差異」を超えて合意形成するのかというプロセスをゲームを通じて体験し、「研究・講義・社会学連携・社会実装」といった、大学人に求められる能力の向上につなげていきます。同時に、大学人という枠を超えて「他者との関わりの中で学び続ける力」を得る為のヒントを、120分で生成し、共有していきます。

《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》 ☎ <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/fd/1804-1809> ✉ tlsc@celas.osaka-u.ac.jp》



30名 2時間 日本語 対面



20名 1.5時間 日本語 対面



30名 2時間 日本語 対面

オンライン教材作成法

講師：権藤千恵（全学教育推進機構 特任研究員）

豊中 6月14日 16:20-17:50
吹田 6月21日 16:20-17:50

〈キーワード〉オンライン学習、e-ラーニング

〈概要〉

オンライン学習教材を活用して対面授業と組み合わせた反転学習やブレンド型学習を導入する大学が増えています。本セミナーでは、効果的にオンライン学習教材を作成するために基本的な知識、効果的な活用事例、オンライン学習教材の作成方法を紹介します。

※当日はノートパソコン（Windows もしくは Mac）をお持ちください。

《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》 ☎ <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/fd/1804-1809> ✉ tlsc@celas.osaka-u.ac.jp》

コースデザインワークショップ

講師：佐藤浩章（全学教育推進機構 准教授）
増澤利光（全学教育推進機構／情報科学研究科 教授）
浦田悠（全学教育推進機構 特任講師）
根岸千悠（全学教育推進機構 特任助教）

豊中 7月14日～15日 各日10:00-18:00
9月6日～7日 各日10:00-18:00

〈キーワード〉コースデザイン、学習者中心、シラバス、
クラスデザイン、マイクロティーチング

〈概要〉

コースデザインとは、教員がコース（授業科目）を何らかの目的・目標に基づいて具体的に設計することです。ワークショップでは、2日間で学生中心の授業のデザイン方法を学んだうえで、ご自身のシラバスや授業のブラッシュアップを行います。また同じ悩みを抱えた他の教員とアイデアを共有することで、今後の授業の質の向上を目指します。

※パソコン及び改善したいシラバスをご持参ください。

※全課程修了後に修了証が授与されます。

※通し研修となりますので、途中からの参加・退出はできません。

《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》 ☎ <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/fd/1804-1809> ✉ tlsc@celas.osaka-u.ac.jp》

シラバス作成法

講師：大山牧子（全学教育推進機構 助教）

豊中 7月19日 14:40-16:40
吹田 7月31日 14:40-16:40

〈キーワード〉シラバス、授業設計、目的、目標、スケジュール、評価

〈概要〉

シラバスは授業の設計図であり、授業の出発点です。そのシラバスの記載は十分に学生の学習を促すものになっているでしょうか。あるいは、国際社会で通用するものになっているでしょうか。外部評価においても、そして教員の個人業績評価においても、シラバスの重要性は高まっています。本セミナーでは、学生の自学自習を促すシラバス作成方法を身につけます。ぜひ新しいシラバスを使ってスタートしましょう。

※参加者はご自身のシラバス（どれか1つ）を持参ください。

《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》 ☎ <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/fd/1804-1809> ✉ tlsc@celas.osaka-u.ac.jp》



30名 1.5時間 日本語 対面

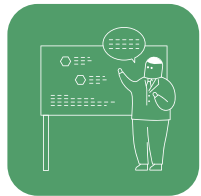


30名 20時間
(事前学習含む) 日本語 対面



定員
受講時間
使用言語
研修形式

※掲載内容は2月28日時点の情報です。最新情報は各開催部局にお問い合わせいただくか、学内ポータルサイト「マイハ نداイ」（FD関係）にてご確認ください。



教育能力 開発プログラム

アクティブラーニングの理論と実践 ーアクティブラーニングとは何か？ どのように実践するのか？

講師：西森年寿（人間科学研究科 人間科学専攻 准教授）

吹田 7月19日 16:00-17:30（予定）

〈キーワード〉アクティブラーニング、ジグソー法、協調学習／協同学習、プロジェクト型学習

〈概要〉

アクティブラーニングについての講義および実践例の紹介、質疑応答

《問合先：人間科学研究科 庶務係》 [✉ jinka-syomu@office.osaka-u.ac.jp](mailto:jinka-syomu@office.osaka-u.ac.jp)》



 70名
 1.5時間
 日本語
 対面

大阪大学ファカルティ・ディベロップメントフォーラム

講師：未定

豊中 9月 13:00-17:00

吹田 9月 13:00-17:00

〈キーワード〉教育改革、アクティブ・ラーニング、英語による授業、携帯端末等の授業への活用、カルト問題、障がい学生支援等

〈概要〉

1. 基調講演またはパネルディスカッション・・・

参加者全員を対象として、最新の教育改革のトレンド等について情報提供を行う。

2. 研修・・・

班別のグループ討議及びワークショップ。主な研修テーマ：アクティブ・ラーニング、英語による授業、携帯端末等の授業への活用、カルト問題、障がい学生支援など

《問合先：教育・学生支援部 教育企画課 総務係》 [✉ gakusei-gakumu-soumu@office.osaka-u.ac.jp](mailto:gakusei-gakumu-soumu@office.osaka-u.ac.jp)》

 300名
 3.5時間
 日本語
 対面／
オンライン

情報教育システム教員向け説明会

講師：間下以大（サイバーメディアセンター 准教授）

豊中 9月

〈キーワード〉情報教育システム

〈概要〉

情報教育システムの CLE、OUMail 等の説明と利用。

教員卓の AV パネル等の利用方法の説明。

《問合先：サイバーメディアセンター 情報メディア教育研究部門》 [✉ ecs-request@ecs.osaka-u.ac.jp](mailto:ecs-request@ecs.osaka-u.ac.jp)》

 30名
 1.5時間
 日本語
 対面

iPad Café

講師：岩居弘樹（全学教育推進機構 教授）

豊中 原則毎月第4木曜日 15:00-16:30

〈キーワード〉mobile apps and devices, interactive classroom, collaborative learning

〈概要〉

携帯端末・タブレット端末を活用して、学生同士・学生と教員のインタラクティブな授業を実現していませんか。iPadCafe は、iPad の活用方法、HALC（Handai Active leraning Classroom：iPad 教室）の使い方、アプリ紹介やトラブル対応の方法など、自由に語り合う場です。どなたでも参加いただけます。HALC 以外の教室でも iPad を使ってみたい、学生のモバイル端末を活用したいという方も歓迎です。

《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》 <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/fd/1804-1809> [✉ tlsc@celas.osaka-u.ac.jp](mailto:tlsc@celas.osaka-u.ac.jp)》



 30名
 1.5時間
 日本語
 対面

コンサルティングサービス

講師：全学教育推進機構教育学習支援部教員

豊中 随時（1時間×1～3回）

〈キーワード〉授業デザインのプロセス、学生の学習、教育内容、学習成果、教授法、学習評価

〈概要〉

授業デザインやシラバス、教授法、評価などに関する様々なご相談を承っております。お気軽にご連絡ください。

【ご相談例】

・自分の授業に対して学生はどう思っているのだろうか？→〔MSF（Midterm Student Feedback）〕授業の教室に入り、学

生から授業に対するコメントを聞き取ります。授業終了後に、コメントをもとに改善策を練るご支援をいたします。

・タブレット端末やスマートフォンを活用した授業をしたい→〔ICT 活用支援〕ICT 機器（タブレット端末、携帯端末等）の操作や設置の方法、授業での活用の仕方などのご提案をいたします。

・英語での講義を担当することになったが、不安である→〔TIE（Teaching in English）〕英語で教えるための方法やテクニック等についての情報提供やお手伝いをいたします。

・研究室をうまくマネジメントできない→〔研究室教育支援〕研究室でのルールづくり、一年間の行事の設定など、プロジェクトマネジメントの手法を取り入れた研究室運営に関する情報提供や研究室教育に関するご支援をいたします。

《問合先：全学教育推進機構 教育学習支援部》 <http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/fm/consuform/>》

 未設定
 1時間×
1～3回
 日本語
 対面／
オンライン

Echo ALP を用いた 講義映像・講義資料配信とその応用

講師：未定（複数を予定）

豊中 未定

〈キーワード〉授業支援システム、講義映像収録配信、アクティブラーニング

〈概要〉

Echo ALP を実際に操作しながらその機能について学ぶ。

《問合先：サイバーメディアセンター 情報メディア教育研究部門》 [✉ ecs-request@ecs.osaka-u.ac.jp](mailto:ecs-request@ecs.osaka-u.ac.jp)》

 30名
 1.5時間
 日本語
 対面

授業支援システム(CLE)入門講座

講師：竹村治雄（サイバーメディアセンター 教授） 他

豊中 未定

〈キーワード〉授業支援システム、LMS、教育学習支援情報システム、教育情報化

〈概要〉

授業支援システムを実際に操作しながらその機能について学ぶ。

《問合先：サイバーメディアセンター 情報メディア教育研究部門》 [✉ ecs-request@ecs.osaka-u.ac.jp](mailto:ecs-request@ecs.osaka-u.ac.jp)》



 30名
 1.5時間
 日本語
 対面

授業支援システム(CLE)応用講座

講師：竹村治雄（サイバーメディアセンター 教授） 他

豊中 未定

〈キーワード〉授業支援システム、LMS、教育学習支援情報システム、教育情報化

〈概要〉

授業支援システムを実際に操作しながらその機能について学ぶ。

《問合先：サイバーメディアセンター 情報メディア教育研究部門》 [✉ ecs-request@ecs.osaka-u.ac.jp](mailto:ecs-request@ecs.osaka-u.ac.jp)》



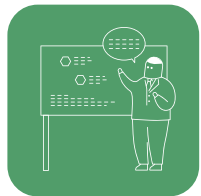
 30名
 1.5時間
 日本語
 対面

 定員

 受講時間

 使用言語

 研修形式



教育能力 開発プログラム

ハラスメント防止セミナー

講師：根岸和政（工学研究科 附属オープンイノベーション教育研究センター 講師）

吹田 未定

〈キーワード〉 ロールプレイによる、ハラスメント防止につながるコミュニケーションの体験

〈概要〉

他者視点に立って、日ごろの教育指導の在り方を検証し、円滑なコミュニケーションによる教育指導法を模索する。

《問合せ先：工学研究科附属オープンイノベーション教育研究センター

✉ negishi@cryst.eei.eng.osaka-u.ac.jp（根岸） ✉ honma@ceids.osaka-u.ac.jp（本間）》

30名 3時間 日本語 対面

教育者として、大切にすることは何か？

講師：田中万里子（サンフランシスコ州立大学 名誉教授）

吹田 未定

〈キーワード〉 学生の多様化、教育者の在り方

〈概要〉

講師の教育者として体験および心理学者としての知見から、教育者として大切にすることをご教授頂く。

《問合せ先：工学研究科附属オープンイノベーション教育研究センター

✉ negishi@cryst.eei.eng.osaka-u.ac.jp（根岸） ✉ honma@ceids.osaka-u.ac.jp（本間）》

30名 3時間 日本語 対面

研究室不登校の学生の心のケアについて

講師：川西利昌（日本大学 名誉教授）

吹田 未定

〈キーワード〉 研究室不登校、心のケア

〈概要〉

講師のカウンセラーとしての臨床経験から、不登校学生の対方法についてご教授頂く。

《問合せ先：工学研究科附属オープンイノベーション教育研究センター

✉ negishi@cryst.eei.eng.osaka-u.ac.jp（根岸） ✉ honma@ceids.osaka-u.ac.jp（本間）》

30名 3時間（予定） 日本語 対面

自閉症スペクトラム障害ないし、 その傾向にある学生への対応について

講師：嵯峨慈子（健康運動指導士）

吹田 未定

〈キーワード〉 自閉症スペクトラム障害、教育指導

〈概要〉

自閉症スペクトラム障害の原因を理解し、運動療法によるその効果を知ること、教育現場で出来ることを模索する。

《問合せ先：工学研究科附属オープンイノベーション教育研究センター

✉ negishi@cryst.eei.eng.osaka-u.ac.jp（根岸） ✉ honma@ceids.osaka-u.ac.jp（本間）》

30名 3時間（予定） 日本語 対面

限定 高等司法研究科、法学研究科教員のみ対象 授業見学会（大阪大学・関西大学）

講師：FD 教育企画委員会が選任した阪大又は関大の教員

豊中他 未定

〈キーワード〉 説明、支持、板書、配付資料、教室マネジメント

〈概要〉

FD 教育企画委員会選定の授業に参加し、授業の進め方、教授方法、配布資料等を実際に見学・見聞することにより、各自の授業を改善する手がかりを得る。

《問合せ先：高等司法研究科教務係 ✉ houkou-kousikyomu@office.osaka-u.ac.jp》

未設定 1.5時間 日本語 対面

定員

受講時間

使用言語

研修形式

限定 産業科学研究所構成員のみ対象

総合解析センター説明会（機器分析講習会）

講師：鈴木健之（産業科学研究所 准教授）他 9 名

吹田 4月4日 13:45-16:45

〈キーワード〉 分析法、装置の原理、適用範囲、予約法

〈概要〉

まず分析の基本となる、装置の分類についての概要について学びます。その後、種類別に測定法の原理と測定装置の仕組み、研究への応用例について学びます。また、測定装置を利用する際の利用方法、共同利用するうえでのマナー安全上の注意について学びます。

《問合せ先：産業科学研究所 総合解析センター ✉ e.tani@sanken.osaka-u.ac.jp》

50名 3時間 日本語 対面

限定 微生物病研究所、免疫学フロンティア研究センター教職員及び学生のみ対象 不正防止について

講師：松浦善治（微生物病研究所長・教授）

吹田 4月20日 11:20-11:40

4月20日 13:35-13:55

〈キーワード〉 研究不正、研究倫理、捏造、改ざん、剽窃、不正使用

〈概要〉

本研修は「微生物病研究所・IFReC 諸施設の利用に関するオリエンテーション」における 1 メニューであり、微生物病研究所、IFReC に所属する全教職員・学生に対し、微生物病研究所所長によるレクチャーが行われる。また、当日欠席者には、後日録画した DVD あるいは WEB システムを視聴を義務づける。

《問合せ先：微生物病研究所企画広報推進室 ✉ suishin@biken.osaka-u.ac.jp》

未設定 20分 日本語／英語 対面／オンライン

Maple 講習会

講師：未定

豊中 6月

〈キーワード〉 Maple、ハンズオンセミナー

〈概要〉

Maple の基本構成と原理、Maple の基本操作方法、グラフの描画

微積分計算と積分変換

数学計算（1）（代数方程式、微分方程式の解法）

数学計算（2）（線形代数の計算）

その他の機能（GUI アプリケーションの開発等）

《問合せ先：サイバーメディアセンター 情報メディア教育研究部門 ✉ ecs-request@ecs.osaka-u.ac.jp》

30名 3時間 日本語 対面

限定 微生物病研究所構成員のみ対象

微研職員研修 1：Academic English for RIMD Researchers

講師：Dr. Neville Greening

吹田 7月

〈キーワード〉 研究成果の情報発信、Academic English、学会発表

〈概要〉

学会発表を模した模擬プレゼンテーションを行い、英語のネイティブスピーカーにチェックをうける。また、プレゼンテーションだけでなく、質疑応答も行い、英語によるコミュニケーションや対応のノウハウも学ぶ。

《問合せ先：微生物病研究所企画広報推進室 ✉ biken-pr@biken.osaka-u.ac.jp》

20名 1.5時間×2日 日本語 対面



研究能力 開発プログラム

学術情報の迅速かつ効率的な収集方法や発信方法、厳守すべき研究倫理など、研究を行う上で必要な能力開発を目指すプログラムです。

◎受講にあたり、特別な配慮が必要な場合、開催2週間前までにご連絡ください。
◎本プログラムへの参加は「大阪大学FDポイント」に反映されます。ご自身のFDポイントはCLE上で確認できます。（FDポイントの確認方法はP.2をご参照ください）

※掲載内容は2月28日時点の情報です。最新情報は各開催部局にお問い合わせいただくか、学内ポータルサイト「マイハントай」(FD関係)にてご確認ください。

定員

受講時間

使用言語

研修形式



研究能力 開発プログラム

限定 微生物病研究所，免疫学フロンティア研究センター，医学系研究科構成員のみ対象

アドバンストセミナー

講師：各回により異なる

吹田 毎月1回 16:00-17:00

〈キーワード〉感染症、免疫

〈概要〉

学外から招聘した感染症学・免疫学分野の第一線の研究者によるレクチャーを開催する。基本的に月1回、場所は微生物病研究所融合型生命科学総合研究棟で行う。本セミナーは大学院高度副プログラム及び医学系研究科単位認定セミナーであり、若手研究者としての大学院生も対象としている。

《問合せ先：微生物病研究所企画広報推進室》
✉ suishin@biken.osaka-u.ac.jp 《

未設定
各1時間
日本語／
英語
対面

限定 微生物病研究所，免疫学フロンティア研究センター，医学系研究科構成員のみ対象

微研集談会

講師：各回により異なる

吹田 毎月第4火曜日 16:00-17:00 ※8月と12月を除く

〈キーワード〉感染症、免疫学、がん、ゲノム解析学

〈概要〉

微生物病研究所、IFReCに所属する若手教職員を中心に、最新の研究成果について発表と、質疑応答を行う。本研究セミナーは医学系研究科単位認定セミナーでもあり、若手研究員としての大学院生教育目的も併せ持つ。

《問合せ先：微生物病研究所企画広報推進室》
✉ suishin@biken.osaka-u.ac.jp 《

未設定
各1時間
日本語／
英語
対面

研究・教育の推進に資する図書館の利活用

講師：図書館職員

未定 未定

〈キーワード〉図書館の利用、電子リソース、図書館施設、図書の購入・寄贈、雑誌の購読、機関リポジトリとオープンアクセス、教育・学習支援

〈概要〉

附属図書館が提供する情報サービス、図書館施設の利用方法等について、研究推進の観点、教育実施の観点から具体的事例を基に学びます。

《問合せ先：附属図書館 図書館企画課 企画係》
✉ kikaku@library.osaka-u.ac.jp ☎ https://www.library.osaka-u.ac.jp/ 《

50名
1.5時間
日本語
対面

微研職員研修 1：研究成果の社会実装を考える

講師：各回により異なる

吹田 未定（年2回開催予定）

〈キーワード〉産学共創、産学連携、アントレプレナーシップ

〈概要〉

微生物病研究所発ベンチャー企業関係者（技術顧問、CEO など）によるレクチャーおよび企業業務のブース展示を開催する。基本的に年2回、場所は微生物病研究所融合型生命科学総合研究棟で行う。

《問合せ先：微生物病研究所企画広報推進室》
✉ biken-pr@biken.osaka-u.ac.jp 《

80名
各3時間
日本語
対面

定員

受講時間

使用言語

研修形式

産学官民連携の協創まちづくりにおける大学の役割

講師：森栗茂一（CO デザインセンター 教授）

豊中 6月 10:30-12:00

〈キーワード〉産学官民連携、協創、まちづくり、エリアマネジメント、PBL、高度汎用力、副プログラム、コンソーシアム

〈概要〉

- 1、大阪大学の教育目標と産官学民連携の協創まちづくり
- 2、PBL など高度汎用力養成の教育
- 3、地域に生き世界に伸びる

《問合せ先：全学教育推進機構等事務部（CO デザインセンター総務担当）》
✉ yamada-t@office.osaka-u.ac.jp ☎ http://www.tlsc.osaka-u.ac.jp/fd/1804-1809 《

50名
1.5時間
日本語
対面



社会学連携能力 開発プログラム

緒方洪庵が開いた適塾
や大阪大学の歴史など
本学への理解を深める
プログラムや、実社会
と連携した教育や研究
の進め方についてのプロ
グラムです。

◎受講にあたり、特別な配慮が必要な場合、開催2週間前までにご連絡ください。
◎本プログラムへの参加は「大阪大学FDポイント」に反映されます。ご自身のFDポイントはCLE上で確認できます。（FDポイントの確認方法はP.2をご参照ください）

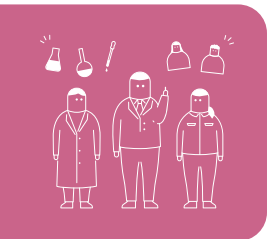
※掲載内容は2月28日時点の情報です。最新情報は各開催部局にお問い合わせいただくか、学内ポータルサイト「マイハantai」（FD関係）にてご確認ください。

定員

受講時間

使用言語

研修形式



マネジメント能力 開発プログラム

薬品や廃液の取扱など
安全衛生に関わる内容
や、各種コンプライア
ンスに関わる内容など、
組織の管理運営能力の
開発を目指すプログラ
ムです。

◎受講にあたり、特別
な配慮が必要な場合、
開催2週間前までに
ご連絡ください。
◎本プログラムへの
参加は「大阪大学FD
ポイント」に反映され
ます。ご自身のFDポイ
ントはCLE上で確認で
きます。(FDポイント
の確認方法はP.2を
ご参照ください)

限定 産業科学研究所構成員のみ対象

産研新人オリエンテーション

講師：大岩顕(産業科学研究所 教授)、その他産研教員

吹田 4月下旬または5月上旬

〈キーワード〉新人、オリエンテーション

〈概要〉

産業科学研究所の歴史および現在の研究・組織について、各担当教職員等が紹介する。

《問合せ先：産業科学研究所 企画室》✉ isir-secretary@sanken.osaka-u.ac.jp》

50名 4時間 日本語 対面

限定 産業科学研究所構成員のみ対象

産研安全講習会

講師：バイオセイフティー担当教員、技術職員

吹田 4月下旬または5月上旬

〈キーワード〉安全管理、説明

〈概要〉

前半は産研においてバイオ実験に新しく従事する学生・研究者を対象に法令に関わる部分を中心に講習を行います。後半は産研に新しくこられた学生・教職員全員を対象に安全衛生講習を行います。

《問合せ先：産研技術室》✉ shouichi@sanken.osaka-u.ac.jp》

約50名 4時間 日本語 対面

新入教職員安全衛生講習会

講師：百瀬英毅(安全衛生管理部 准教授) 他

未定 4月

〈キーワード〉安全衛生

〈概要〉

新たに本学の教職員となった者を対象に、労働安全衛生規則第35条(雇入れ時等の教育)に基づき、本学における安全衛生管理の基本事項を理解していただくとともに、安全意識の向上、事故・災害発生の防止、健康の保持増進に役立てる。

《問合せ先：安全衛生管理部推進第一グループ》✉ anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp》

250名 2時間15分 日本語 対面

高圧ガス管理支援システム(OGCS)利用講習

講師：中本将嗣(低温センター 助教)

未定 5月

〈キーワード〉高圧ガス管理支援システム(OGCS)

〈概要〉

高圧ガスを取り扱う教職員で大阪大学高圧ガス管理システム(OGCS)を使用する教職員が使用方法を習得する。

《問合せ先：安全衛生管理部推進第一グループ》✉ anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp》

50名 1.5時間 日本語 対面

高圧ガス・液体寒剤に関する安全講習 (低温センター吹田分室編)

講師：中本将嗣(低温センター 助教)

未定 5月

〈キーワード〉高圧ガス、液体寒剤

〈概要〉

低温寒剤の安全な取扱い方と注意点及び低温センターの利用法について講習します。また高圧ガスや高圧ガスボンベの取扱いについて初歩的な講習を行います。

《問合せ先：安全衛生管理部推進第一グループ》✉ anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp》

50名 1.5時間 日本語 対面

高圧ガス・液体寒剤に関する安全講習 (低温センター豊中分室編)

講師：竹内徹也(低温センター 助教)

未定 5月

〈キーワード〉高圧ガス、液体寒剤

〈概要〉

低温寒剤の安全な取扱い方と注意点及び低温センターの利用法について講習します。また高圧ガスや高圧ガスボンベの取扱いについて初歩的な講習を行います。

《問合せ先：安全衛生管理部推進第一グループ》✉ anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp》

50名 1.5時間 日本語 対面

大阪大学薬品管理支援システム(OCCSⅢ)の 利用について

講師：角井伸次(環境安全研究管理センター 准教授)

未定 5月

〈キーワード〉大阪大学薬品管理支援システム(OCCSⅢ)

〈概要〉

OCCSと関連する法令による規制についての理解を深める。また実験系廃液と排水についての管理や処理方法について研修する。

《問合せ先：安全衛生管理部推進第一グループ》✉ anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp》

50名 1時間 日本語 対面

詳解：化学物質安全取扱講習

講師：山本仁(安全衛生管理部 教授)

未定 5月

〈キーワード〉化学薬品

〈概要〉

化学薬品の安全な取扱いに関する知識と、関連する主な法令に基づく適切な薬品管理の方法について解説します。また、薬品等の廃棄に関連する方法、概念についても説明します。

《問合せ先：安全衛生管理部推進第一グループ》✉ anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp》

50名 1時間 日本語 対面

非化学系のための化学薬品取扱講習

講師：山本仁(安全衛生管理部 教授)

未定 5月

〈キーワード〉化学薬品

〈概要〉

非化学系(生物系・物理系等)の研究分野で化学薬品を取り扱う教職員に対して、化学物質が危険性・有害性を有していること、管理の必要性、法規制、管理方法、危険有害性情報、法令情報の取得方法について学びます。

《問合せ先：安全衛生管理部推進第一グループ》✉ anzen-suisindai1@office.osaka-u.ac.jp》

50名 1時間 日本語 対面

定員
受講時間
使用言語
研修形式

※掲載内容は2月28日
時点の情報です。最新
情報は各開催部局にお問
い合わせいただくか、学内
ポータルサイト「マイハ
ンダイ」(FD関係)にてご
確認ください。



マネジメント能力 開発プログラム

実験系廃液・排水の取扱い

講師：角井伸次（環境安全研究管理センター 准教授）

未定 5月

〈キーワード〉実験系廃液・排水の取扱い

〈概要〉

実験系廃液の取扱いでは、実験室で生じる廃液の貯留区分や回収方法、注意点など危険な事例を含めて研修します。
また実験系排水の取扱いでは、実験器具の洗浄方法・排水の規制項目や注意点、水質汚濁防止法の有害物質、管理要領・点検表、特定施設の届出などについて研修します。

《問合せ先：安全衛生管理部推進第一グループ》
✉ anzen-suisindail@office.osaka-u.ac.jp》

50名 1時間 日本語 対面

電気コンセントと電気配線の安全講習

講師：百瀬英毅（安全衛生管理部 准教授）

未定 5月

〈キーワード〉電気コンセント

〈概要〉

実験等で安全に電気を取り扱うための基本事項を取得する。

《問合せ先：安全衛生管理部推進第一グループ》
✉ anzen-suisindail@office.osaka-u.ac.jp》

50名 1時間 日本語 対面

限定 平成29年7月1日以降に新たに採用された教員、研究員等

大阪大学新任教員（研究員）研修

講師：三成賢次 理事、小林傳司 理事、八木康史 理事、小川哲生 理事、河原源太 理事、
工藤真由美 理事、ハラスメント相談室長

吹田 6月13日 9:30-12:00（予定）

〈キーワード〉ガバナンス、教育、グローバル化、財務状況、社会学創、情報セキュリティ、産学共創、男女協働推進、研究推進、ハラスメント防止

〈概要〉

新任教員等に対し、役員による講義を行う。

《問合せ先：総務部人事課職員係》
✉ soumu-jinji-syoku1@office.osaka-u.ac.jp》

未設定 2.5時間 日本語 対面

限定 理学研究科構成員のみ対象

理学研究科・理学部ハラスメントに関する研修会

講師：未定

豊中 6月下旬

〈キーワード〉ハラスメント防止

〈概要〉

理学研究科及び理学部教職員を対象に、ハラスメントに関する講演を行う。

《問合せ先：理学研究科人事係》
✉ ri-jinji@office.osaka-u.ac.jp》

未設定 1時間 日本語 対面

ハラスメント防止等に関する研修会

講師：未定

豊中 7月

〈キーワード〉ハラスメント問題、人権問題

〈概要〉

ハラスメント問題（テーマは未定）

《問合せ先：総務部総務課業務運営係》
✉ soumu-soumu-jimukaikaku@office.osaka-u.ac.jp》

100名 2時間 日本語 対面

定員
受講時間
使用言語
研修形式

限定 文学研究科構成員のみ対象

平成30年度公的研究費の不正使用防止に係る コンプライアンス説明会（仮）

講師：文学研究科 会計係

豊中 9月（2回実施予定）

〈キーワード〉公的研究費、不正使用、コンプライアンス、物品調達システム、旅費申請システム、教員発注制度

〈概要〉

不正使用防止計画推進室から提供された部局等コンプライアンス教育用教材等に基づき、部局におけるコンプライアンス教育の一環として、説明会を開催するものです。

《問合せ先：文学研究科会計係》
✉ bunsouhaku-kaikei@office.osaka-u.ac.jp》

各80名 1時間 日本語 対面

限定 理学研究科構成員のみ対象

コンプライアンス教育

講師：理学研究科各専攻長、附属施設長

豊中 9月上旬～10月下旬

〈キーワード〉研究倫理、研究費不正使用防止、コンプライアンス教育

〈概要〉

- 公的研究費の不正使用防止について
- 教員発注制度：発注を行う教職員の方へ～権限とその責任について～

《問合せ先：理学研究科各専攻等事務室》

未設定 1時間 日本語 対面

限定 新たに採用された工学研究科教職員

工学研究科新任者研修

講師：田中敏宏（工学研究科長・教授）

大阪大学ハラスメント相談室 専門相談員（その他講師は調整中）

吹田 未定

〈キーワード〉工学研究科、研究倫理、研究不正防止、財務基本知識、ハラスメント防止、教員・事務系職員のチームビルディング

〈概要〉

研究科を取り巻く状況（約45分）、研究に関わる不正、研究倫理（約30分）、工学研究科の財務基本知識（約30分）、ハラスメント防止（約60分）、交流研修（約2時間）等を含み全体で約6時間（予定）で、研究科の新任教職員を対象とする。

《問合せ先：工学研究科人事係》
✉ kou-soumu-jinji@office.osaka-u.ac.jp》

約20名 6時間（予定） 日本語 対面

限定 工学研究科構成員のみ対象

ランチョンセミナー

講師：根岸和政（工学研究科 附属オープンイノベーション教育研究センター 講師）

吹田 未定

〈キーワード〉コミュニケーションスキルの理論と実践

〈概要〉

人間関係が業務の効率化に寄与し、双方の業務の円滑化を促進するためのコミュニケーションスキルの演習機会を提供する。それぞれの立場で抱えている課題を共有化することで、相互理解を深める。

《問合せ先：工学研究科附属オープンイノベーション教育研究センター》
✉ negishi@cryst.eei.eng.osaka-u.ac.jp（根岸）
✉ honma@ceids.osaka-u.ac.jp（本間）》

12名 1時間 日本語 対面

※掲載内容は2月28日時点の情報です。最新情報は各開催部局にお問い合わせいただくか、学内ポータルサイト「マイハundai」（FD関係）にてご確認ください。